だちっぱとちぎ

2023
1
Vol.262

JA全農とちぎ 通信

特集

2023年　年頭のご挨拶
「栃木米販売イベント」を愛知県で開催しました!
社会貢献・地域貢献に取り組みます!

CONTENTS

トピックス

TACパワーアップ栃木県大会を開催しました
第39回　栃木県肉用牛総合共進会
『とちぎの花フェア』を開催しました✿
高品質なビール大麦生産に向けて
キラリと光るとちぎの星食味コンテスト☆

・お知らせ
　令和5年産加工トマト栽培者　募集締め切り迫る!
・簡単レシピ
　『豚バラのうま塩鍋風』
・子牛市場情報
・JAタウンからのお知らせ
・行事予定
・編集後記

2023年 年頭のご挨拶

全農栃木県本部　運営委員会会長
菊　地　秀　俊

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと、心よりお慶びを申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、２月のロシアのウクライナ侵攻に端を発した世界経済の混乱は、今なお解決の糸口が見えない状況で、資材価格はかつてない水準で高止まりし、特に肥料や飼料、燃油価格の高騰は農業経営に大きな打撃を与えました。ＪＡグループ栃木では、これら資材高騰に対応する国や県による緊急対策の実施を要請するとともに、決定された支援措置については対象となる組合員が確実に支援を受けられるよう対応を進めてまいりました。

また、世界的な穀物需給のひっ迫により、小麦や大豆などの海外に依存する輸入農産物の国際価格が上昇しており、国内では食料品を中心とする小売価格の値上げに歯止めがかからず、国民の消費生活に深刻な影響を及ぼしています。世界的には人口増加に伴う食料需要が急増する中、日本が将来にわたって安定的に食料を確保できるかが現実的な課題となっています。
今こそ国民が消費する食料は国内で生産する『国消国産』の国民的理解を醸成し、将来を見据えた食料安全保障を国の基本施策として確立・強化していくことが重要です。

一方、コロナ禍による大きな影響を受けてきた主食用米は、依然として大幅な需給緩和の状況でありますので、ＪＡグループ栃木では、持越在庫の圧縮を図るため、飼料用米への作付転換を強力に推進してまいりました。需要回復のきざしも見え始めてきましたが、栃木米の販売環境の改善を図るため、令和５年産についても引き続き生産者の皆様に作付け転換に協力いただきたいと考えています。

未だ新型コロナウイルス感染の終息は見通せませんが、各ＪＡの創意工夫によって、組合員との対話活動が再開され、ＪＡまつりやウオーキング大会などのイベントが多くのＪＡで実施されました。コロナ禍において、組合員や地域住民の皆様とふれあうことの大切さを実感するところです。

ＪＡや農業をめぐる環境はかつてない困難な状況下でありますが、ＪＡグループは新たな３か年計画のもと、『持続可能な食料・農業基盤の確立』『持続可能な地域・組織・事業基盤の確立』『不断の自己改革の実践を支える経営基盤の強化』など５つの重点取組事項に取り組んでまいりました。令和５年度も厳しい環境が継続することが予想され、役職員が一丸となって不断の自己改革を実践し、「持続可能な農業」と「豊かでくらしやすい地域共生社会」の実現に向けて確実な成果を上げることが必要です。

結びに、一日も早く新型コロナウイルスが終息し、本年が皆様方にとりまして良き１年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

2023年 年頭のご挨拶

全農栃木県本部　県本部長
池　田　佳　正

新年あけましておめでとうございます。生産者、JA、関係団体の皆様におかれましては、新たな気持ちで新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症拡大による世界的なサプライチェーンの混乱やロシアによるウクライナ侵攻が長期化し、いまだ終息の兆しが見えない状況です。昨今の急激な経済活動の再開が物価を押し上げ、石油や食品原料の多くを輸入に頼っている日本はその影響を大きく受けています。
特に農業生産に不可欠な肥料や飼料、燃料などの資材価格の高騰に、円安の進行が拍車を掛けて、生産コストの上昇が農業経営に大きな打撃を与えています。
また、同じように生活必需品である食料品やガソリン、電気料金などが相次いで値上がりし、すべての国民の暮らしや家計に深刻な影響を及ぼしています。

このように2022年は農業を取り巻く環境変化が著しい年でありましたが、全農では肥料原料の安定確保や段ボール原紙価格の値上げ幅の圧縮など、コスト上昇の影響を緩和するための諸対策や、生産者の営農継続支援などに取り組んでまいりました。
また、組合員へのサービス向上を目的に昨年9月に新たに開所した「うつのみや広域農機センター」を含む農機事業の一体運営や、来年度の稼働をめざして取り組んでいる「青果物広域集出荷センター」といった、JA域を超えた集荷販売物流基地の整備にも力を入れて取り組んでいます。

一方、消費拡大の取り組みでは、U字工事を新たにキービジュアルとした「とちぎ米」の魅力発信、県内子ども食堂への精米提供による食育活動、栃木県が誇るいちご新品種「とちあいか」のPRなど、県産農畜産物の認知度向上にも力を注いでおります。
コメの販売も少しずつ回復しており、令和4年産いちごでは過去最高の販売金額を達成するなど、成果は着実に表れています。
さらに、青果物や米の契約販売といった販売力の強化、「たちつてとちぎ」を合言葉にした産地とちぎブランドの推進、担い手支援強化による生産振興など、生産者の所得増大と地域の活性化に取り組んでいます。

今後も、急速に変化する生産・流通・消費動向に対応するため、生産振興・販売力強化・拠点型事業の一体運営などを通じて、持続可能な農業生産基盤の確立を支援するとともに、食料の安定供給の実現に取り組んでまいります。

2023年は、「2030年の全農グループのめざす姿」や「全体戦略」をもとに、中長期的な視点に立った「全農とちぎ2030年ビジョン」を策定し、持続可能な農業と地域社会の実現に向けた事業戦略を実践してまいります。
そして、「農家・組合員のために」という基本姿勢のもと、持続可能な農業と食の提供のため、“なくてはならない全農”であり続けるために、JAと一体となり、全職員が一丸となって、全力で事業に取り組んでまいります。
結びに、2023年が皆様にとって素晴らしい年になることをご祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

特集

「栃木米販売イベント」を愛知県で開催しました！

本会米麦部は12月7日、愛知県内に35店舗を展開するスーパーマーケット“ドミー”の西尾シャオ店にて栃木米販売イベントを開催し、その全店舗で栃木米を数量限定で販売しました。

今回のイベントは栃木米アンバサダーのU字工事のお二人と栃木米のPRを行い、当日はトークショーをはじめ、写真撮影会と豪華景品が当たる大抽選会が2回にわたって行われました。

トークショー会場には多くのお客様が訪れ、木曽さんちゅうさんのMCのもと、楽しいトークとサイン入り色紙をかけたじゃんけん大会で大いに盛り上がりました。トークショーの中では、栃木米の品種の特徴やおすすめの食べ方などを、楽しい地元トークを交えながら紹介し、お客さんは熱心に耳を傾けていました。

MC の木曽さんちゅう（左）と U 字工事（右）

トークショー会場の様子

フードコート前で CM も放映しました！

特設販売会場・抽選会会場では、栃木米をお買い上げいただいたお客様を対象に、ガラポンによる抽選会とU字工事との写真撮影会が行われました。こちらも大盛況で、主婦の方はもちろん、小さなお子さんから若者、年配の方まで多くの方にご参加いただきました。

栃木米購入のお客様の行列

イベント当日のドミー西尾シャオ店では、1日で約1500kg（1.5トン）の栃木米をご購入いただき、ご来場いただいた地元の方をはじめ、県内外の多くの方に美味しい栃木米の魅力を発信することができました。

特集

社会貢献・地域貢献に取り組みます！

柔道・太田選手に県産農畜産物を贈呈しました

本会営農販売企画部は12月16日、世界柔道選手権大会（タシケント）男女混合団体で優勝した太田彪雅選手（栃木県栃木市出身）に県産農畜産物を贈呈しました。

同日行われた「栃木県知事特別表彰授与式」にてスポーツ功労賞を受賞した太田選手へ、本会運営委員会の菊地会長より、県産米「とちぎの星」、とちぎ和牛、とちあいかが贈られました。

太田選手は「お肉が大好きなので、本当に嬉しい。いただいたもので力をつけて、稽古に励んでいく」と笑顔でコメントしました。

菊地会長と福田県知事は「とちぎ和牛はもちろん、栃木にはおいしいお米・野菜・果物がいっぱいあるので、地元のものを食べて今後も頑張ってほしい」「栃木のうまいものをたくさん食べて、世界で活躍してほしい」と、それぞれ激励の言葉を述べました。

宇都宮ブリッツェンへ県産農畜産物を贈呈しました

本会営農販売企画部は、12月3日に開催された「宇都宮ブリッツェン 2022シーズンエンドパーティー＆JCL 2022個人総合優勝祝賀会」に合わせ、プロサイクルロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」へ新米「とちぎの星」を贈呈しました。

ブリッツェンからは、「いただいた美味しいとちぎの星を食べて、来シーズンも練習に励んでいきたい」とコメントがありました。

宇都宮ブリッツェンは、昨シーズン小野寺選手が個人総合優勝を飾ったほか、各選手がレースで目覚ましい活躍を見せており、新体制となる今シーズンに更なる躍進が期待されています。

これからも本会一同、宇都宮ブリッツェンを精一杯応援していきます！

NHK歳末助け合い募金を寄付しました

全農グループでは、社会貢献活動の一環として、「NHK歳末たすけあい募金」活動に取り組んでいます。本会は12月5日、栃木県共同募金会の中川常務理事のもとを訪れ、募金を寄付しました。

今年も昨年同様、県本部の職員やジェイエイ栃木ライフ・JAグリーンとちぎ・JAエルサポートの社員へ協力を募り、合計405,164円を寄付することができました。募金は、県共同募金会を通じて、県内の児童養護施設や福祉施設などに入所する方々の支援や、施設でのクリスマス会や新年会などの歳末事業に役立てられます。

TACパワーアップ栃木県大会を開催しました

本会営農販売企画部は12月5日、宇都宮市内で「TACパワーアップ栃木県大会」を開催し、県内JAのTACや営農経済渉外担当者など約50名が参加しました。

地域農業の担い手に出向くJA担当者(愛称TAC=タック)は現在、多様化・高度化する担い手ニーズに対応するため、活動の一層の活発化が求められています。

冒頭、同部の日下田部長から「近年の担い手への土地集約に伴い、TAC活動の重要性は一層増している。本大会を通じて県内外の情報共有を行っていただき、最前線で活動する出席者の皆様の一助を担いたい」と挨拶がありました。その後、本所の担当者から「TAC活動の全国情勢について」の報告があり、農業情勢変化によるTACの必要性や全国の活動状況、活動強化に向けた取り組み事例やツールなどの紹介がありました。

また、県外の先進事例としてJAグループ石川の担当者から、石川県内におけるTAC活動の取り組み発表があり、“スマート農業”・“事業承継”・“事業間連携”を切り口に、活動実施のポイントを説明しました。

最後には佐野・足利・うつのみやの県内3JAから、実例・実体験に基づいた事例報告がありました。

JA グループ石川営業戦略室
橋本　克己 氏

第39回　栃木県肉用牛総合共進会

11月24、25日の2日間、東京都中央卸売市場食肉市場において、栃木県産銘柄牛のブランド力向上を目指し「第39回栃木県肉用牛総合共進会」が開催されました。(主催:(一社)栃木県農産物マーケティング協会)

24日は肥育牛の部交雑種の審査会が行われ、出品された20頭のうち、(株)手塚畜産(JAしおのや)が最優秀賞を獲得しました。

また、25日には肥育牛の部黒毛和種の審査会が行われ、出品された45頭のうち、(株)サイトウ農場(JAおやま)が最優秀賞を獲得しました。

受賞された皆様、おめでとうございます！受賞者は以下の通り。(敬称略)

【肥育牛の部交雑種】

	受賞者	管内JA
最 優 秀 賞	(株)手塚畜産	JAしおのや
優秀賞１席	(株)長谷川農場	JA足利
優秀賞２席	(株)手塚畜産	JAしおのや
優良賞１席	松山　敏幸	JAうつのみや
優良賞２席	梁島　史好	JAうつのみや
優良賞３席	須藤　貢	JAうつのみや

【肥育牛の部黒毛和種】

	受賞者	管内JA
最 優 秀 賞	(株)サイトウ農場	JAおやま
優秀賞１席	(株)若菜畜産	JAしもつけ
優秀賞２席	磯野　均	JAなす南
優良賞１席	山ノ井　亮司	JAかみつが
優良賞２席	平久井　順一	JAしおのや
優良賞３席	(有)小池商事	JAしもつけ
優良賞４席	(株)ウカジファーム	JAうつのみや
優良賞５席	須賀　弘之	JAおやま

『とちぎの花フェア』を開催しました✿

本会園芸部は11月21日～25日の5日間、(株)仙花にて「とちぎの花フェア」を開催しました。

本会は「とちぎの花」を宣伝するため、市場内に特設会場を設け、市場買参人の皆様に県内各産地のお花を紹介しました。

セリ前挨拶は、栃木県産農産物のイメージキャラクター「とちぎフレッシュメイト」が行い、年末年始に販売される「とちぎの花」のPRと、仲卸業者の方と共同で花の店頭販売を行いました。

今後もより多くの方に「とちぎの花」をお届けできるよう、アピールしてまいります。

高品質なビール大麦生産に向けて

本会米麦部は12月8日、「令和4年度 栃木県ビール大麦生産･品質対策会議」を開催しました。当日は県、農水省、ビール会社、本会職員ら約30名が出席し、令和4年産ビール大麦を総括する他、令和5年産の生産・品質対策について協議しました。

本所からは国内産麦の情勢報告があり、県からは令和4年産ビール大麦の生育概況の説明がありました。また、本会からは生産や受け渡しの状況の説明や、令和4年産で実施した生産・品質向上対策の報告を行いました。

協議の中では関係者間で活発な意見交換がなされ、各ビール会社からは、令和5年産に向け、2品種栽培の採用への要望や国産化推進への期待などが寄せられました。

キラリと光るとちぎの星食味コンテスト☆

12月13日、「とちぎの星」のおいしさをPRし、認知度を高めてブランド価値の向上を目指すとともに、生産者の意欲向上、品質・食味の向上を図ることを目的とし、「キラリと光るとちぎの星食味コンテスト」の本審査会・表彰式が行われました。(主催：とちぎ農産物マーケティング協会)

本審査では、コンテスト全体で40点の応募があった中から、1次審査・2次審査を経て選ばれた10点を米の専門家6名が官能審査(審査基準は、色・つや(外観)・香り・粘り・食感(硬さ)・味・総合評価の7項目)し、審査の結果、JAおやまの柿木芳里さんが大賞に輝きました。

審査したごはんソムリエの柏木智帆さんは「とちぎの星はポテンシャルが高い。様々な可能性を感じ、ワクワクするお米」とコメントしました。

お知らせ

令和5年産加工トマト栽培者　募集締め切り迫る!

本会は、カゴメのトマトジュースの原料に使用するトマトの栽培者を募集しております！
令和5年産の取りまとめの期限は**1月末**まで！！

水田転作の作物として作付けする品目を探している方や、夏季の労働力を有効に活用して収益拡大を狙う方、安定的に所得を確保したい方などにオススメです！

栽培は４月に定植を行い、７月から８月にかけて収穫を行います。

〇加工トマト栽培の特徴について

・価格が事前に決定しています。（令和5年産：**49円/kg**）

令和5年産より販売単価アップ！
（R4：￥47/kg　R5：￥49/kg）

・**全量出荷**できます。（出荷規格適合品）
・出荷経費（運賃・コンテナ代等）はかかりません。
・定期的に**技術指導**をしています。
・新規生産者や栽培面積に応じた**各種助成**があります。
・機械収穫栽培は、定植機・収穫機を**無償貸出**いたします。

【経営収支（10ａあたり）】

機　械　収　穫	手　　収　　穫
販売額：245,000円（目標単収：5t/10a）	販売額：343,000円（目標単収：7t/10a）
費　用：100,000円	費　用：100,000円

※費用は変動する場合があります

少しでも興味のある方は、下記連絡先までお気軽にお問い合わせください♪

【問い合わせ先】全農とちぎ　担い手支援課　TEL：028-616-8838

簡単レシピ

豚バラのうま塩鍋風

（アドバイス表2022年1月あじわいコースP31）

〈材料〉（2人分）

豚バラうす切り	250g
キャベツ（一口大）	1/4個
にんにく（薄切り）	2片分
赤唐辛子（輪切り）	1本分
にら（5cm）	1/2束
白ごま	適量
Ⓐ 水	5カップ
Ⓐ 酒	1/4カップ
Ⓐ 鶏ガラスープの素	大さじ1
Ⓐ 塩	小さじ1と1/2

■作り方■

1. 豚肉は食べやすい大きさに切る。
2. 鍋にⒶを入れて中火で煮立たせ①を入れる。再び煮立ったらアクを取り、キャベツを加えて火を弱め5分程度煮る。
3. ②ににんにくと赤唐辛子を入れて軽く火を通し、最後ににらを加えて1分程煮る。仕上げに白ごまを振る。

栃木推進課　管理栄養士
髙橋雲世さん

豚肉に含まれるビタミンB1は、糖質の代謝を促してエネルギー生産を活発にし、疲労回復やスタミナ増強の効果が期待できます。特に、にんにくなどに多いアリシンと合わせると、ビタミンB1の効果が持続し、より効果的です。

ポイント!!

ふれあい食材についてはこちらから!

子牛市場情報　令和4年度12月矢板家畜市場成績書

	性　別	上場頭数	成立頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重(日令)	単価(kg)	前回比
1日	雌	164	159	928,400	321,200	594,622	286(289)	2,076	37,307
	雄	–	–	–	–	–	–	–	–
	去　勢	205	203	1,081,300	354,200	743,827	317(286)	2,339	32,944
	合　計	369	362	1,081,300	321,200	678,292	304(287)	2,230	33,280
2日	雌	160	159	1,095,600	232,100	583,954	290(292)	2,009	17,225
	雄	–	–	–	–	–	–	–	–
	去　勢	207	207	1,289,200	202,400	716,583	316(290)	2,263	41,634
	合　計	367	366	1,289,200	202,400	658,966	305(291)	2,158	31,674
12月期合計	雌	324	318	1,095,600	232,100	589,288	288(290)	2,042	27,600
	雄	–	–	–	–	–	–	–	–
	去　勢	412	410	1,289,200	202,400	730,072	317(288)	2,301	35,466
	合　計	736	728	1,289,200	202,400	668,576	304(289)	2,194	31,680
概況	12月の矢板家畜市場は、736頭上場にて728頭が成立し、前年同月比28頭増となりました。平均価格は対前月比雌27,600円高、去勢35,466円高となりました。 雌・去勢共に上下価格差のある取引で、前月に比べ値を上げた展開となりました。 購買者数　1日目：140人　　2日目：141人								

○次回開催/2023年1月12日～13日　出場予定:各350頭(2023年2月の開催は、1日・2日です。)

JA全農とちぎ

とちぎ新鮮倉庫からのお知らせ

季節商品のご紹介 スカイベリー

いちご収穫量日本一の栃木県から大粒！きれい！おいしい！「スカイベリー」をお届けいたします★

なんといってもボリューム満点！味も糖度と酸味のバランスがよく、ジューシーな味わいとなっています♪是非ご賞味下さい！

他にも厳選した『とちぎの味』を取り揃えております♪

JAタウン

だちつぐとちぎ新鮮倉庫

とちぎ新鮮倉庫　検索　クリック

1月の行事

- 4日(水)　RADIO BERRY(17:15～)
- 6日(金)　CRT栃木放送(7:33～)
- 11日(水)　RADIO BERRY(17:15～)
- 12日(木)　矢板子牛市場　畜産部
- 13日(金)　矢板子牛市場　畜産部
- 15日(日)　いちご王国・栃木の日
- 18日(水)　RADIO BERRY(17:15～)
- 21日(土)　全農杯サッカー大会決勝
- 25日(水)　RADIO BERRY(17:15～)

編集後記

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします☺皆さんは新年の目標は立てましたか？私は昨年、久しぶりに実家暮らしに戻ったおかげで料理を全くしなくなりました。なので、今年は料理を頑張ることを目標にします。サボらないようにします。…でも人の作った料理の方が美味しいんですよね。

(ミウ)

だちつぐとちぎ
2023
1
Vol.262
JA全農とちぎ通信　令和5年1月1日発行

栃木のいちごを食べよう

とちおとめ

あまずっぱくて、ジューシー！
全国No.1のシェアを誇る
主力品種

とちあいか

大粒でジューシー、
キワだつあまさ！
みんなに愛される
ニューフェイス

スカイベリー

おおきくキレイで、
美しい！ベリーおいしい
三ツ星いちご

とちぎのいちご大使
コリラックマ

Korilakkuma™
©2023 San-X Co., Ltd. All Rights Reserved.

毎月25日は
とちぎのいちごの日

Strawberry Kingdom 栃木
いちご王国

栃木のいちごは、安全・安心。
栃木県では、放射能モニタリング検査を行い、
安全が確認されたいちごだけを出荷しています。

栃木いちご消費宣伝事業委員会
どんどんおいしくなります。
栃木のいちご

だちつぐとちぎ
JA全農とちぎ | JAグループ栃木

編集・発行／JA全農とちぎ 企画管理課
〒321-0905 宇都宮市平出工業団地9番地25 ☎028(616)8804
https://www.zennoh.or.jp/tc/

ちきゅうにやさしい みどりをまもる
VEGETABLE OIL INK
この印刷物は環境にやさしい植物油インクと再生紙を使用しています。
私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。
私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
■ 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
■ 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
■ 地球の環境保全に積極的に取り組みます。